

(別紙)

令和7年3月定例会議 一般質問

1番議員 清水 友紀

開物成務の「教育のまち 開成」を町の強みに

開成町の名前の由来「開物成務」という熟語は、「知識を開いて世のための務めを為す」という教育を象徴する意味を持つ。

また本町は、地域と一体となって子どもたちを育てることを目指し、国が定めるコミュニティスクール（地域住民や保護者が参画する学校運営協議会を設置した学校）として、神奈川県内では他に先駆けて町内の小中学校が認定された町である。

さらに、令和7年度から推進される第六次開成町総合計画では、7つある基本目標のうち、「未来を担う子どもを育むまち」を筆頭に掲げている。その揺るぎない町の名前の由来にある理念や、これまでの実績、現在にいたる姿勢から、開成町はまさに教育の町と言える。

しかしその事実が町民と共有され、「教育のまち 開成」が町内で定着しているか、また町外に認識され移住希望者を惹きつけているかという点、努力の余地が多分にあるのではないかと考える。そこで以下について問う。

- (1) 「教育のまち 開成」や「開物成務」を町内外に浸透させる施策は。
- (2) 家庭や地域で子どもを育む力を養うための取り組みは。
- (3) より良い教育環境を目指す体制、仕組みづくりは。